

4月22日
火遊びは絶対にしないよ
新1年生と保育園児に防火ワッペン配布



ランダムセルにワッペンを付ける小泉会長
弟子屈消防署川湯支署(伊藤秀明支署長)と川湯防火管理協議会(小泉裕会長)は4月22日、川湯保育園児と川湯小学校の1年生に防火ワッペンを贈りました。春の火災予防運動の一環として例年行われているもので、子どもの火遊びによる火災の予防が目的です。ワッペンは、防火衣を着たパンダが「火の用心」と書かれた拍子木を持ったデザイン。防火衣の色は毎年変わります。ワッペンは、伊藤支署長と小泉会長が園児と児童のカバンやランドセルに付けました。子どもたちはかわいいワッペンに喜びの歓声を挙げ「火遊びは絶対にしません」と元気に約束しました。

カメラスケッチ



このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐにつけかけます。お気軽にご連絡ください。



企画財政課企画係 ☎482-2913(課直通)

4月24日
放水技術の向上ときれいな街並みを目指して
川湯消防署と消防団が放水訓練



毎年恒例の放水訓練
釧路北部消防事務組合川湯消防団(濱岡正次団長)と弟子屈消防署川湯支署(伊藤秀明支署長)が4月24日、川湯温泉街で放水訓練を行いました。職団員の放水技術の向上と、行楽シーズンを迎え観光客にきれいな街並みを見てもらえるよう温泉街の道路清掃を兼ねて、毎年実施しています。この日は26人が参加。雪解け後の道路脇にたまった土や枯れ葉、ほこりなどを、ホースを巧みに操って放水し、洗い流しました。職団員は、きれいになっていく道路と街並みに、川湯温泉街の「火の用心」と防災の誓いを新たにしていました。

4月23日・4月26日
自分たちの町をきれいに
川湯地区の皆さんが清掃活動



協力して手際よくごみを回収
川湯温泉第1・第2・第3・敷島町・川湯みどり・川湯駅前各自治会の皆さんが4月23日に、川湯温泉市街地と川湯駅前地区の清掃を行いました。観光シーズンの幕開けを前に地域をきれいになりたいと、例年この時期に行っています。4月26日には跡佐登自治会の皆さんも地域の清掃を実施。2日間で約300人が参加し、合計で軽トラック23台分、約4,170キロのごみを集めました。

5月22日
ふるさとの良さを再認識
春のツアーで名木を觀賞



名木に見入る参加者
町が指定した名木を巡るツアーが、5月22日に開催されました。名木は、公募の中から地域の象徴とされているものや歴史的価値があるもの、景勝上優れているものなどを2006年に指定したものです。ツアーは2007年から春と秋の年2回開催され、春のツアーは桜を中心に行われています。今回は根釧西部森林管理署との共催で、釧路市からの参加者も含め38人が参加。名木の選考委員長を務めた須田文男さんから、樹齢などの説明を受けながら見学しました。見事な名木に、参加者からは感嘆の声が聞かれました。

5月19日
初めて植えた花が見事に咲きました
弟子屈小学校でチューリップが見頃に



チューリップがきれいに咲いたよ
弟子屈小学校(伊藤新一校長)の花壇で、チューリップが見頃を迎えています。美しいまちづくりを目指して、昨年の秋初めて植えたものです。児童が赤、白、黄色、紫、ピンクの5色合わせて1,000球の球根を植えました。この日は白いチューリップが見頃を迎えていましたが、色別に順次開花していきそうだとのこと。皆さんも一度足を運んでみませんか。

地域の役に立ちたい

事業所による社会貢献活動



クニオカ工業・今道東建設工業による湯川の清掃



佐藤建設工業による文化センターのソフトボール場整備

今年で4回目です。この日は10人が参加。タイヤシヨベルで表土を整地し、タイヤローラーで転圧しました。



今井林業による倒木の搬出

使用する予定です。5月13日には、クニオカ工業(株)(國岡雅文代表取締役)と(株)今道東建設工業(今誠代表取締役)の皆さんが、川湯の敷島みどり橋付近で湯川排水路や河川敷の清掃を行いました。昨年までクニオカ工業が6年連続で行っていたもので、今年初めて今道東建設が同社に協力。2社合わせて18人が参加し、上流に向かう班と下流に向かう班の2班に分かれ、ごみを拾い集めました。5月14日には、(株)佐藤建設工業(佐藤洋司代表取締役)の皆さんが摩周観光文化センターソフトボール場の整備を行いました。

今井林業(株)(伊藤喜美雄代表取締役)の皆さんが3月28日、国道391号沿いの美留和から川湯の間で、アカエゾマツの倒木の搬出を行いました。倒木は加工して、新しい道の駅の花壇として

町の話題



町の話題



たくさんの聴衆を前に熱く語る乙武さん

みんなちがって、みんないい

乙武洋匡さんの講演会

『五体不満足』の著者として知られる乙武洋匡(おとたけひろたか)さんの講演会(同実行委員会主催)が5月22日、摩周観光文化センターで開催されました。生まれつき両腕両脚がないという障害がある乙武さんは、大学在学中、自身の経験をユーモラスに綴った『五体不満足』が多くの人々の共感を呼び、大ベストセラーになりました。大学卒業後はスポーツライターとして活躍。また、スポーツ選手の人物像や自身の体験をもとに書いた絵本なども執筆しています。2007年から2010年には東京都杉並第四小学校教諭として3・4年生を担当。現在は作家として、またメディアを通して教育現場で得た経験を発信していく活動を行っています。講演会は、ユニバーサルな観光地づくりに取り組む弟子屈UDプラザ(三木亨代表)などが実行委員会を組織して企画したもの。町内外から約1千100人が訪れ、乙武さんの講演に耳を傾けました。「みんなちがって、みんないい」と題し、自らの経験をもとに講演を行った乙武さんは「人は一人一人違う。違いを認め、支え合うことが大切」と語りました。また前日の21日には「弟子屈UDプラザ」もっと優しい旅への勉強会(共催の『障がい者と旅』のフォーラムin弟子屈)も開催されました。